

今月は乾癬の増大号である。飯塚 一先生の総説にある通り、その治療法は時代とともに大きく変遷し、並行して病態への理解も飛躍的に進んでいる。

私が皮膚科医になった1983年には、デルモベート[®]を含めたすべての強さの外用ステロイドが出揃い、乾癬治療においてはステロイドが全盛であった。当時の東大病院皮膚科の病棟には、常に数人の乾癬患者が入院し、ステロイド軟膏処置を受けていたのを思い出す。ステロイド以外の治療としては、当時すでに古典的であったゲッケルマン療法（コールタール＋紫外線）が一部の病院でまだ行われていた。私自身は経験したことはないが、経験した先生に伺った話では、非常によく効いたとのことである。しかし、コールタールの汚れと悪臭が嫌われ、さらに発癌の危険性から今ではまったく行われていない。余談であるが、東京帝大の病理学教授であった山極勝三郎は1915年にコールタールによる人工的发癌に成功し、これが世界初の人工癌であったことからノーベル賞の有力候補であったが、残念ながらあと一步のところで受賞を逸している。

1985年にエトレチナートが発売され、画期的な内服薬として話題になったが、口唇炎などの不快な副作用がほぼ必発であることに加え、催奇形性があるため、処方たびに同意書への署名を求めなければならないなど、実に使いにくい薬剤であった。1990年代に入ってシクロスポリンが登場し、治験段階でその効果を目の当たりにして驚いた記憶がある（鳥居秀嗣ほか：西日皮，53：1242-1245，1991）。1992年に保険適用となり多くの患者の症状を劇的に改善させた。これで重い乾癬に悩む患者はいなくなるのではと楽観的な気分になったが、副作用のために中止を余儀なくされたり、doseを上げられないために十分な効果が得られなかったりして、最終解決とはいえない状態であった。その後登場したビタミンD外用薬やナローバンドUVB療法も画期的ではあったが、多くの患者の悩みを解消させるには至らなかった。

そんななか登場した生物学的製剤は大きなインパクトをもって迎えられ、その劇的な効果は「今度こそ最終解決ではないか」と思わせるに十分であった。しかし、一次無効、二次無効、副作用、医療費などの問題があつて、まだ最終解決とはいえない状況にあるのは明らかである。

このように、乾癬治療の歴史においては、新しい治療が登場してこれでゴールだと思ったら実は本当のゴールはまだ先だった、というようなことが繰り返されている。PASIゼロを患者が望むのは当然としても、その希望をかなえるためにさらに強い治療を提供し、力で病気をねじ伏せようというやり方を続けていく先に何があるのか、長期使用による予期せぬ副作用の出現や医療費の問題などを含めて、若干の不安を感じているこの頃である。

（相馬良直）

— 顧 問 —

肥田野信 大原國章

— 編集委員 —

大塚藤男 土田哲也 五十嵐敦之 相馬良直 林 伸和

「皮膚科の臨床」第60巻 第10号 9月増大号

2018年9月1日発行（毎月1回1日発行）

定 価（本体 4,400 円＋税）

年間購読料金 定価（本体 42,100 円＋税）

〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発 行 所 金原出版株式会社

発 行 者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03(3811) 7165〔編集室直通〕

TEL 03(3811) 7184〔営業部直通〕

FAX 03(3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印 刷 所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600

- 本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

- JCOPY＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつと事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-3513-6969，FAX：03-3513-6979，E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。